

議事録

主題：令和3年度第3回大津町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会

日時：2021年12月23日(木) 13:30~15:00

場所：大津町役場3階 会議室302

出席者 (敬称略)	委員会	丸山 泰委員長、津留 武芳副委員長、 大村 吉幸委員、劔持 智哲委員、西田 典正委員、小山 佳子委員 桑原 正浩委員、宮崎 悟一委員
	大津町役場(事務局)	総合政策課 課長 木村課長、審議員 濱洲、係長 田上
	NTTデータ経営研究所	金融政策コンサルティングユニット 大野、坂田
	同席者	熊本県北広域本部 振興課 中野主幹
議事	1) 大津町人口ビジョンの概要等について 2) アンケート結果等について 3) その他	
配布資料	01_委員会次第 02_まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員名簿 03_大津町人口ビジョンの概要等について 04_「結婚・出産・子育て」に関するアンケート調査結果報告書 05_振興総合計画町民アンケート調査結果報告書 06_社会経済情勢調査報告書 07_地域評価調査報告書 08_総合戦略策定スケジュール・振興総合計画と総合戦略の連携イメージ 09_振興総合計画 施策の体系(案)	

議事内容

1. 開会

2. 委員長挨拶

委員長より挨拶

- 今回3回目ということで、いよいよ来年度に向けて佳境に入ってくると思います。その第1弾として、今日は人口ビジョンということで、紹介いただく。
- その先には、総合戦略ということになるので、これを見据えた形での活発な議論が出来ればと思う。よろしく願いたい。

3. 議事

<議題①：人口ビジョンの概要について>

事務局より説明。主な意見は以下の通り。

➤ 人口推計の増加見込みについて

- 49 ページ目、おそらく表現の違いだと思うが、社人研準拠推計によると大津町の人口は今後も増加していくことが見込まれているとの記載がある。しかし、データはどこにもない。これは、43 ページの将来展望のことか。（委員）
- ご認識のとおり。（事務局）
- しかし、将来展望は準拠となる移動率の想定は、若年層の社会減は実質ゼロとなっている。こうした準拠の推計でいいのか。（委員）
- 43 ページの図をご覧ください。青色の線が社人研の準拠推計となっている。グラフの1番左側が2020年起点となっており、2040年ないしは2045年まで増加傾向が見込まれていることになる。（事務局）
- ということであれば、2035年ごろまでは増加していくことが見込まれているとの表現がよいのではないか（委員）
- 承知した。（事務局）

➤ 将来展望における若年層の社会減ゼロについて

- 将来展望で若年層の社会減がゼロにした理由はあるのか。というより、それを目指すとの理解でいいか。（委員）
- ご認識のとおり。（事務局）
- 実際の施策を考えるのはこれからの取組みということか。（委員）
- ご認識のとおり。（事務局）
- 実質ゼロを目指すというのは、意欲でいいと思うが、過去の経緯から見ても十分目指せる根拠があるということか。（委員長）
- 将来的に減少していくことが見込まれている。根拠となるデータは22ページに紹介している。こちらの資料では2010年から2015年の若年層の社会減はプラスになっており、この状態をキープできれば、社会減ゼロも夢物語ではないと考える。（事務局）
- ハードルは高いと考えるが。（委員）
- ご認識のとおり。（事務局）

➤ 人口ピラミッドにおける20歳から24歳の減について

- 14ページの人口ピラミッドのうち、20歳から24歳が全国平均より低い。こちらの理由を今一度伺いたい（委員）
- こちらはデータから探ることができないため推測になるが、就職・進学年代なので、おそらくは就職・進学をきっかけに大津町を出ていかれる方多いのではないかと思料する。（事務局）
- そういう若年層を受け入れるものが大津町にないという理解でいいか。（委員）
- ご認識のとおり。（事務局）

➤ 大津町としての方向性の明示について

- 1点依頼したい。色々分析しているものと思料するが、人口ビジョンと言いつつまだまだ人口予測との印象。これを踏まえ、大津町としてどのようなビジョンを掲げるのか次の総合戦

略に生きてくると思料するので、ここはもっと明確に言うべきではないか。（委員長）

- 大勢としてはこれまでの緩やかな増加傾向を維持していくとのことだが、ただし、単に町の総人口という「量」的なものではなく、どの様に増加傾向を維持していくのかという「質」の充実に変換しなくてはならないと考える。大津町は他の自治体に比べ、かなり恵まれているので、その中で質の転換、質への充実がポイントである。（同）
- 今回は大きくは3つの課題が挙げられていると考える。1つはエリアの格差（中央と南北）に対して仕事や住居などのエリア対策をしていくということを戦略に盛り込まなければならないのではないか。（同）
- 2点目は希望出生率。2.06というアンケートから導き出した高い数値があるが、これは、あくまで希望であって、これを実現させてあげる町になるという宣言をすべき。4年後に2.06を達成していなければ、希望を叶えてあげられない町になってしまう。（同）
- エリア格差の解消と希望出生率2.06の達成ということがポイントであり、質への変換をしていくことが大切。さらに言うなら、若い世代の学びや働く場の創出も加味すればポイントは3つになる。このあたりをきちんと盛り込んで、そこに対してしっかり対策していくことをまとめとして人口ビジョンに文章として盛り込むべきと考えるが、考えはいかがか。（同）
- 今日お示した資料は概要版でありパワーポイントで作成したが、実際の人口ビジョンは文章とグラフでしっかり作成していく。（事務局）
- そのビジョンをどのような文章で綴り、宣言するのかをこの場で議論すべきと思うが、大津町としての人口ビジョンをしっかりと点検する形で文章を作っていたら次回、示していただいた上で皆さんのご意見を伺いたい。（委員長）
- 資料の表現で1点お願いしたい。将来展望との記載はだれかが計算した客観的なものに見えすぎるので、「大津町役場将来展望」と記載してはどうか。こうしたいとの思いが一番上に記載しているのだから、そうすべき。展望は大津町、社人研の準拠、参考の3つあるが、そのうち大津町役場将来展望とすることで我々の意思だということを、ここが目標だということを高らかに宣言するような資料にまとめていただきたい。（同）

➤ **官民連携の取組について**

- 人口ビジョンで、「今後町の人口に大きく影響すると考えられる事項」というところについて（おそらくTSMCの菊陽町進出の件を受け）、こちらはデジタル推進という名目なので、社会的現象・事象の話と考えるが、これに関して、現時点で戦略的なものの考えがあるのか。（委員）
- 菊陽町の半導体工場の新設に伴う対応については、大津町でも11月30日に推進本部とプロジェクトを立ち上げている。具体的な内容についてはこれからとなるが、まずは情報の共有と課題の整理に取り組んでいきたいと考えている。（事務局）
- 自分の業態は銀行業であるが、お客様の声としてその辺の情報を共有し、色んな意味で一緒にやっていきたいとの思いをお聞かす。人口増加の取組みとして積極的にどういう施策を結果として、将来そういうものを目指すのかという会にもっていけばもっと充実した会になるものとする。（委員）
- 現状分析より、戦略をどう取り組むのが大事。大津町は色々恵まれておりいい環境にあるが、残念ながら菊陽町や合志に遅れを取っている印象。学校誘致をやるのか、町として経済特区を取得するのか、工場誘致を積極的に行い地元の経済発展につなげるのか。結果、人口が増加するものと思料するが、方向性についてご検討いただきたい。（委員）
- 今、民間企業においても地域の課題解決についてかなり取り組んでおられ、町長も官民

連携等申している。加えて、民間の方が行政よりも情報を早く入手される事も多い状況を踏まえ、一緒に取り組んでいきたいと思っている。大津町では、副町長や濱洲など、県からの出向者もいるため県との連携を強化し、一早い情報収集に努めたい。(事務局)

- どちらかというと、色んな会社が進出して、自然増になっているところがあるものと思料。それが良い悪いではない。例えば、TSMS が進出するという話も、どこに何がどうなるのという情報が錯綜している。そのあたりの立ち位置も含め、大津町としてどうしていくのか、11月に立ち上げたプロジェクトチームや我々金融機関も一緒に情報交換しながら、できる部分を個別具体的に挙げていけるような連携を取っていきたい。(委員)
- その際にはお声かけさせていただきたい。(事務局)
- 今回の戦略策定については、戦略的なプランを作っていく絶好の機会だと思われる。他力本願的な内容でなくいいチャンスなので、大津町がどう行くべきかという意志やビジョンを見せるべきだと思う。人口ビジョンのまとめのところも総合戦略に繋がるような大津町の意思を明確に示したものに仕上げさせていただきたい。(委員長)

<議題②：アンケート結果等の概要について>

事務局より、「結婚・出産・子育て」に関するアンケート調査及び振興総合計画町民アンケート調査の結果について説明。その後、NTT データ経営研究所より社会経済情勢調査及び地域評価調査の結果について説明。

説明。主な意見は以下の通り。

➤ アンケート結果について

- 今回の「結婚・出産・子育て」に関するアンケートをもとに人口ビジョンの展望が開けると思うのだが、中味を見てもかなり要望が高いと考える。2.06 という希望出生率について、今後の話かと思うが、総合戦略の中の大きな柱に据えていきたいというような事務局の展望などはあるか。(委員長)
- 前回の委員会で施策の体系のイメージを示させていただいた。1つの柱として「若い世代の結婚の希望をかなえる」という項目は1つ掲げており、その中で今のご意見についても盛り込んでいきたいと考えている。(事務局)
- 当初は割と総花的だったと思料するが、その中でこのアンケート実施や人口ビジョン策定の作業の過程で、ここは重点的に取り組まなければならないという風を読みとれるのだが、そのバランスはどうされるのか。今後の作業かとは思いますが、現時点の事務局の思いはどうか。(委員長)
- 事務局としてはこのような結果を大事にして、注力すべきと認識している。今後、担当課等と意見交換をしてどういった取り組みができるかを模索していきたい。(事務局)
- 仮にもし、バランス的に怪しくなったら、人口ビジョンを変えなくてはならなくなる。希望出生率は2.06で出している。これに対する重要な施策を打って2.06を展望できるとしている。そこはこだわる必要があると思う。大津町の考え方、戦略性が大事。(委員長)
- 今回、小学校区の細かい分析があって、大変参考になった。町の特徴として、過疎化の進む地域と人口の増えている地域があって、格差が生まれていると考える。今後、その対策が必要と感じており、地域を回っていてもそういう実感がある。経済活動的な面でも格差が生まれている状況がある。一部の地域、一部の業種だけが繁栄するのではなく、全域への個別支援が必要ではないか。検討いただきたい。(委員)
- 具体的にはエリア戦略を示すのもひとつの意思の現れであると考えている。エリアの特性を捉え

て、エリアに沿った戦略を打ち出すのも大切なメッセージになるので、検討いただきたい。
(委員長)

- 人口ビジョンの中で、最終的に社会増を増やしていくという戦略が必要と思う。アンケートの結果では、まちや地域の魅力は町民と域外の方では異なるではないか。その辺りはアンケート分析から読み取れると思うので、そこを掘り下げていただきたい。(委員)

➤ **社会経済情勢調査について**

- 6 ページ商業分析の小売業は BtoC と理解してよいか。(委員)
- ご認識のとおりである。(NTT データ経営研究所)
- グラフによると、小売業と卸売業の売上を比べると、小売業の方が少ないが、7 ページの従業員数や店舗数の推移では、完全に小売業が多い。これは大津の特徴か、それとも一般的特徴か。(委員)
- 原点に当たっていないため、今この場で情報がない中でのお答えと言うことになるが、おそらく一取引単位当たりの単価が大きく変化しているものと思料。従来とは変わってきているのではないかと言うような見方ができるのではないか。小口化していると言っても良いかと思料。(NTT データ経営研究所)
- 逆に効率化できていないという理由もあるのか。その辺りを町として戦略に DX 化という施策を入れてもいいのかと個人的には思料するが、いかがか。(委員)
- 70 年代以降は小売業の中でも小規模店舗の出店というものが、大きく加速している。ご承知の通り、セブンイレブン等のオペレーションは 2 名ないしは 3 名程度が全国的な平均値であると見て取れる。従ってこのあたりが、大きく寄与しているのではないのかという理解が可能である。その上で、既にこういった小規模のコンビニエンスストア等の商業動態については、運営の高度化・合理化というものが兼ねてより施行されてきており、改めてこの分野で ICT や DX を望むような動きというのは、今後、大きく望むべくはないかなと言うのが私どもの判断である。それよりも、製造業等における手作業あるいは受発注業務の IT の導入、そういった面の方が DX を検討する際の機会としては大きいのではないかと。このような評価が可能ではないかと思料する。(NTT データ経営研究所)
- 大津町の農業就業人口については分かりやすいが、例えば畜産業の人口やからいもの就農者数の推移というものはどうか、ということは捕捉していないのか。(委員)
- 畜産農家の戸数自体が 2 桁の中でも少数、かなり少ないという理解をしているので、例えば近隣の宮崎等の畜産県に比べると、この域内 GDP や就業人口等への影響も限定的とみていいのではないか。そうすると一般的な農業の中でも田畑というようなところが、やはりこの町で注目して見るべきポイントになるものと思っている。(NTT データ経営研究所)
- それに関しては、大津町の特徴としては畜産関係が結構大きな売上げを占めている。それと併せてさつまいもというのは、大津町の特産として力を入れている。あともう 1 つ気になるのが農業の兼業と専業の問題。兼業農家が圧倒的に多いが、専業農家はどのようにしているのか。兼業農家を増やしていった方がいいのか。専業農家の後継者がいないというのは、経済的になかなか成り立たない中で需要が進んでいる状況があるので、それについてどういう政策を町としてやっていくのか、あるいはどういう特産品を作っていくのか、あるいは今後進出企業等の就労が可能となるので、就労しながら農業従事するのか、ぜひ考えていただきたい。(委員)
- 2 件の分析、あるいは大津町のアンケート分析もされたと思うが、通して大津町の総合戦略ないしは振興計画に対して NTT データ経営研究所から大きなサジェッション(提言)など

があればお聞かせいただきたい。(委員長)

- まず一点お話できるとすると、福祉そのものというよりも菊陽町との比較を通じて得られた示唆が明々白々であると言う理解をしているので、ある程度限定的に、先ほど坂田の説明にありましたとおり、待機児童対策を充実させることで、菊陽町との差別化因子をより濃く打ち出していくこと、さらには子育て環境というもののアンケート調査の結果から類推するに大規模な公園そのものというよりも、遊具を需要されている声を確認出来ておりますので、このあたりがやはり何某かの施策を打ち出すべきヒントになるものと思料する。(NTT データ経営研究所)

<議題③：その他について>

事務局より、総合戦略策定スケジュール・振興総合計画と総合戦略の連携イメージ及び振興総合計画 施策の体系(案)について説明。

主な意見は以下のとおり。

(以下、委員長)

- 振興総合計画がまさに縦割り行政らしい形になっているので、そこに総合戦略で横串を刺すということで、縦と横がうまく絡むということになるものと思う。今日、聞いて思ったことは、テーマとしては子育て・結婚の支援を通じた住みやすいまちを目指すということ、エリア別に考えるということ、もう1つは成長戦略という3点だと思っている。
- そうなると、もともとあった4つの柱が変わってくると思っている。子育て・結婚ということはどうしたらいいかということ、エリア別の北部、九州中央部、南部のそれぞれの戦略をどう立てていくか、それを踏まえ上で成長戦略をどうやっていくかという形が今回の議論からすると横断の3つの横串として素晴らしいと思っている。
- これが正しいかわからないので、一度事務局でも検討して頂きたい。例えばこの今の振興総合計画で言うと子育て・結婚支援であれば、例えば2番の2と3番の1と3番の2、4番の2あたりを統一して横断的に取り組んで行くとか、エリア別に行くと北部・中部・南部それぞれに取り組むものを括っていくことによってメリハリがつかないのではないか。
- さらに成長戦略の方も工業、住宅など色々あると思う。人の流れのところもあるだろうし、そういったものを組み合わせると縦割りの番号が戦略ごとにまとまってきて、特に重点施策ということになると大津町の方向性が分かりやすくなるものと思う。
- 今日の議論を踏まえ、横串が大事であるので大津町らしい将来をどう描くかにかかっていると思う。次の会議の時に協議できればと思っている。

4. 閉会

以上